

プロコフィエフ／交響的物語「ピーターと狼」

1936年、2人の息子たちとモスクワ児童劇場を訪れたセルゲイ・プロコフィエフ(1891-1953)は、当時の劇場支配人から語りの入った子どものための音楽を依頼される。面白いと思った彼は自らロシアの民話に基づく台本を仕上げ、瞬く間にこの作品を書き上げた。「あらゆる生き物はモチーフをもっていて、いつも同じ楽器で演奏される」と作曲家が説明したとおり、ここではオーケストラの楽器を登場キャラクターと結びつけ、子どもたちに紹介する教育的な意図を実現している。今日は松尾由美子さんが最初に個々の生き物と楽器を紹介する。牧草地で遊んでいる少年ピーターは弦楽器、木々で囀る小鳥たちはフルート、池で泳ぐアヒルはオーボエ、そこへやってきた猫はクラリネット。小言の多いピーターのおじいさんはファゴット。恐ろしい狼は三本のホルン、狩人たちの鉄砲の音は太鼓で表現される。物語はナレーションでお楽しみいただくとして、動物たちを描く個性的な楽想にも耳をすましてほしい。牧草地で遊ぶ情景を描写するピーターの主題は他の作品でもきかれるプロコフィエフらしいハーモニーで彩られ、猫にいらだつアヒルの音型の特徴的な旋法や狼の登場で慌てふためく動物たちのすばやい音型、動けなくなったアヒルを描いたチェロのフラジオレット、投縄をおろす時の弱音器をつけた第1ヴァイオリンのモチーフなど、あちらこちらに気の利いた表現が散りばめられている

白石美雪

楽器編成

フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン 3、トランペット、トロンボーン、ティンパニ、トライアングル、タンバリン、シンバル、カスタネット、スネアドラム、バスドラム、弦五部 ※スコア上の表記

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。